



JR御殿場線 上大井・相模金子間

微かにみえる隣の駅
さえぎる何十本の踏切の上を渡る人々
点となり、思い思ひに渡る人々
おもぢやの自動車一つ
不思議に父差す
それは遊歩道
小さく渡る自転車
その向こうの向こうに見える
都会の小さな森につづく
小さな電車の中から
小さな電車が
電線をかき分けかき分け
空を飛んでくる

入選
小林郁子（神奈川県）
「都会の森」



江ノ島電鉄 鎌倉高校前

窓越しに青い世界は更新されしていく。
朝の光を3年ごとに浴でながら



JR釜石線 平倉・足ヶ瀬間

講 言

◇ 米屋こうじ Yoneya Koji
鉄道写真家



本コンテストの趣旨である「鉄道写真と詩のコラボレーション」は、詩が写真の説明にならないことが大切です。写真と詩の接点がわずかであっても、表現として成立していれば良い作品になる可能性があります。

鉄道の「旅情」をモチーフとした作品が多く見受けられるなかで、私の目にとったのは、トンネルを飛び出す新幹線を捉えた平野史孝さんの「何者だ」でした。モノトーンの力強い写真が、硬派な印象の詩と融合することで独特な世界が創作されており、異彩を放っていました。

鉄道写真詩コンテストも第二回目を迎え、さらに質の高い作品が数多く寄せられました。審査を終えて、写真と詩の相乗効果は“あり”だと確信しました。

◇ 水無田氣流 Minashita Kiriu
詩人・社会学者



今年で2回目になる本コンテストですが、今回は不思議と、秀作は言葉と作品の「切り取り方」が近似しているのが目立ちました。私が賞に選んだ鎌倉さんの「熱い日」は、プールからの電車に掛けられた視線と、一瞬の感慨が描かれています。終連で視線は水中に入るのですが、そこは写真からみ出した風景ですね。走る写真と時間の流れ、視線の移動が小気味よく切り取られた作品となっていました。昨年私が賞に推した志波さんの詩は、体言止めで潔く切り取られた言葉が効果的で、これも通過した電車の風情が読後爽やかに沸き上がつてくる作品です。

改めて思ったのは、短くても冗長な詩もあれば、長くても思い切りよく切り取られた詩もある、ということです。詩も写真も、世界を大胆に切り取る勇気が必要ですね。

RAILWAY PHOTOGRAPHY & POETRY CONTEST 2018

鉄道写真詩コンテスト入賞作品集

写真と詩で伝える鉄道の魅力



- 国土交通省鉄道局長賞



えび茶色の革靴に
はらりはらりと
桜が舞い降りた
はつと見上げたその顔に
頬は火照り胸は高鳴る
ポンポンポンポン

JR伯備線 美袋・備中広瀬間

一米屋こうじ賞



山陽新幹線 六甲トンネル新神戸側

—鉄道写真詩とは—

鉄道写真詩とは、「鉄道写真」に「詩」を組み合わせて鉄道の持つ魅力を表現するものです。普段乗り慣れた鉄道、旅先での鉄道、その時々出会った鉄道の表情とともに作者の心情が伝わってきます。

The Network for Transport and Environment "ecotran" 一般社団法人交通環境整備ネットワーク

水無田気流賞



JR飯田線水窪

飛勢そ
びいよ
んくこと
ーを考
えて
中に

雲は梯子をゆるりとよこした
今だ音なき屋下がり

「熱い日」 鎌倉 和（静岡県）

エコトラン賞



五所川原駅先 五能線・津軽鉄道線踏切

よーだそめわい少 す五
い人あつたつしお買う人出でいこ人人
一 れできるしワ祭物つま会れつの
日二ももり機かクリ とでう違も踏二二
を人渡そ減会年ワ 病昔數人う 切人々
願 つつもをなク子院かえの人つを
い三てど人重數供 らら数のい渡三人
な人こ心しもねえの銀のれ 数つる人
が なでま て参行ゲた いと
ら四く数つ 渡観 ン日 数き四人
人でえた る日 担は好
もてけ 五 しれ
人 まど 五
・ う 人
・ と と

「ゲン担ぎの踏切」 佐々木信子（青森県）

国土交通省鉄道局後援 一般社団法人交通環境整備ネットワーク主催
鉄道写真詩コンテスト2018 —写真と詩で伝える鉄道の魅力—
協賛: クラブツーリズム・日本旅行・旅の手帖・交通新聞社・関東交通印刷
協力: 鉄道博物館・東武博物館・日本現代詩歌文学館・東北福祉大学 鉄道交流ステーション

鉄道×文学の新しい表現に挑戦! あなたの撮った鉄道写真にあなたの詩を添えて

作品は2018年7月1日から9月30日の間、HP (<http://ecotran.or.jp>)の応募フォームより受付を行いました。
多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

応募規定の概要

- ①写真の撮影及び詩作は同一人であって、未発表のものに限ります。
- ②写真は、鉄道を題材としたものであって単写真に限ります(組写真は不可)。
銀塩写真、デジタル写真、カラー、モノクロの別は問いません。
- 画像ファイルは、JPEG形式とし、ファイルサイズは5MB以内(大きい画像は5MB以内に圧縮)とします。
- 画像ファイルとは、デジタルカメラやスマートフォンで撮影した画像データ及びフィルムカメラで撮影し、スキャナで作成した画像データのファイルを指します。
- ③詩は、自由詩、散文詩のいずれも可。一行詩から、20行未満の詩であって、文字数は400字以内とします。

入選
志波英明（大阪府）

「透明の彩管」

遠き山が光を取り戻す
雲は梯子をゆるりとよこした
今だ音なき屋下がり

枝枝が目色を宿す
足元の笛は透き通して輝いた
午前の雨は山脈の彼方

眼下、蒼き道床がかすかに揺れる
車窓の光線はながれていた
幻であろうか、陽炎を劃したあまり風

入選
佐藤 純（兵庫県）

「子どものいっぽ」

その姿は
ことばにならない、
ことば以上のいっぽを
ぼくのに伝えてくれる
聞こえないことばが
存在してないことを
ぼくら大人は思い出させてくれる
混じりけのない「好き」ということばを
語らずに伝えてくれる



南海高野線
美加の台・三日市町間



阪神線 梅田・芦屋間

入選
山崎 功（茨城県）

「メール」

LINEが届く
今 小淵沢行きに乗つてゐる。もうすぐ
終点に着く
この列車に貴女は乗つてゐる!
ファインダーから目を離し
じつと列車の灯りを追う。



JR小海線 小淵沢・甲斐小泉間

入選
田島佑美（神奈川県）

「Next Station is...」

深い長い夜に
樹々の針が静かな風を誘う
しゅーっと風切る
列車はよそ行き、
君の旅はどこに行く
僕の旅は、どんな風を纏う
何かの中間地点で
黒い顔がびょんと飛び出し、
大きな夢を想う
小さな石が心を突く



新しい朝が始まった。
"Next station is..."

入選
油谷文恵（福島県）

「どしゃ降り」

もう二度と会えない君に手を振ろうと
ここまでやつて来ただけれど
窓辺に君の姿は見えなくて
ゴトゴトと大きな音をたてながら
あつという間に列車は走り去った
空はこんなに青いのに
僕の心はどしゃ降りだ
一目だけでも君の姿が見えたなら
手を振る僕が君に見えたなら
僕の心も一緒だったのに
この青空と一緒に
僕の心はどしゃ降りだ



会津鉄道 あまや・芦ノ牧温泉間